

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念と職員によりつくられた「かみやまだ敬老園の理念」をもつ。毎朝の朝礼時に唱和し意識して取り組み実践につなげている。	理念の言葉の本質をとらえ、利用者一人ひとりの思いと共にスタッフ会議や申し送り時等に唱和し、日々の暮らしの中で寄り添い思いの実現と心身の安定に繋げるように努めている。理念にそぐわない言動が職員に見られた場合には、事柄の背景も加味し管理者は注意を促している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	自治会行事への参加や地元ボランティアの積極的な受け入れを通し地域とつながりながら暮らせるよう配慮している。また地域に「かみやまだ敬老園便り」を回覧、情報発信している。	自治会費を納め回覧板が回っている。地域の情報は大家さんや運営推進会議を通して情報を頂き、地域のさまざまな行事に参加させていただいている。地区開催の文化祭でも寄席や踊り見物に出掛けたりしている。また、近くの児童館から子供達が来訪し、楽しいひと時を過ごしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	共用型デイサービス受け入れしている中で近隣の方からの認知症に対する支援方法を相談されお話することもある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催し8割以上出席して頂いている。事業所の活動報告をし、評価と意見交換の場とさせて頂いている。事業所の理解と地元の行事、ボランティアの紹介、災害時の避難方法など、相談したりご意見を頂き事業所運営に活かしている。	奇数月の第三土曜日の午後2時から利用者代表、家族代表、自治会長、常会長、消防団団長、民生委員、市担当者等の参加をいただき開催している。ホームの近況報告をしたり意見をいただき、話し合われた内容はホームの運営に活かしている。また、テーマを決め、「認知症の基礎知識」や「ヒヤリハットについて」など、介護関連の話をする時もある。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き活動報告している。また千曲市の介護相談員が毎月来園してくださるので状況報告している。千曲市介護保険連絡協議会施設部会への出席。	市の介護施設部会は年5回行われているが、管理者は昨年部会長を務め、市へ協力すると共に顔なじみの関係を築いている。毎月ホームへ来訪して利用者の皆さんの近況等の話を聞いていただく2名の介護相談員の方にはお花見やホームの庭で開くバーベキュー大会等にも参加いただいている。介護認定の更新手続き時にはホームにてご家族立ち合いの下調査を受ける利用者もいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会が開催する研修や勉強会に出席し、身体拘束について理解に努めている。委員を中心に身体拘束と思われる言動について話し合いをしている。施錠はしていない。	日中玄関の施錠はしていない。入居間もない利用者の方や離脱傾向のある方については思いを汲み取り、職員が散歩に同行している。市内の公園の近くに2頭の馬がいて気分転換に丁度良い場所でもあり、その日の様子を見計らいながら出掛けている。所在確認についても常に心掛けている。身体拘束についての研修会に出席した職員が情報共有のため必ず研修資料の回覧を行い、他の職員も一読後確認印やサインをしている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止委員会が設置されており委員会が開催する研修や勉強会に出席している。事業所に虐待を見過ごすことなく話し合うことが出来る雰囲気がある。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業及び成年後見制度について資料をファイルし、読み合わせを行っている。必要を感じた場合職員間で話し合い関係者に相談している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書面を読みながら充分説明し、質問を受けながら契約締結している。解約時も入居者及び御家族の不安がないように質問に答え理解納得を図っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に入居者代表、家族代表が出席している。毎月来園される市の介護相談員に入居者がお話ししたことについて希望に沿うよう検討している。また御家族からの苦情は真摯に受け止め改善している。年2回家族会を開催しご意見ご希望をお伺いし運営に反映させている。	自身の要望を表出することが難しい利用者が若干名いるが、表情やしぐさ等から読み取っている。家族会があり、お花見やクリスマス会の行事に合わせて行っている。近隣在住の家族が多く、毎回ほとんどの家族が参加し、ホームから近況報告を行い、家族からの意見や要望等を運営に活かしている。ホーム便りが毎月発行され、日常の様子の写真や挿絵解説で楽しい紙面となっており、家族とのコミュニケーションに役立っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所の会議、毎朝の朝礼や「目標管理」における面談にて職員の意見や提案を聞いている。事業所には職員が意見や提案を発言しやすい風土がある。管理者は管理者会議を通し代表者に報告、相談し運営に反映できるよう努めている。	管理者は日頃から職員との意思疎通を図るための対話を重視し、働きやすい職場づくりに心掛けている。毎月、第一木曜日の夜スタッフ会議を開催し、カンファレンスを始め各連絡事項を伝えたり意見を交わす場としている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	現在職員ノートを作成して目標に向けている。職員の資格取得に向けた支援を行い向上心をもって働けるよう職場環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内に福祉に従事するあらゆる職員が学べるべき研修「職員基本研修」を開催し受講が義務付けられている。「職員基本研修」は経験年数、役職に応じ段階的に学べるよう構成されており個人々に合った受講が出来る。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
		代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	2か月に1度開催される千曲市施設部会に出席し情報交換、資質向上につなげている。また法人内ではGH部会の毎月開催と事業所間の交換研修が毎月実施され全職員が他事業所に行き、情報交換と交流を図りサービスの質の向上に役立てることが出来る。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談と入居の際、困っている事不安な事 の要望についてお聴きし、職員間で情報共有することにより安心して生活出来るよう努めている。また日頃から利用者との会話の中で、本人に寄り添い傾聴するよう心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接や契約の段階で御家族の気持ちや要望をお伺いし快適で安心できる環境づくりを提供出来るように努めている。また御家族が面会に来られた際に、近況を伝え職員と御家間で情報共有に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と御家族のお話を充分にお聴きし必要としている支援について話し合う、またその時本人の言動や家族の思いからニーズを見極めている。そしてケアプランを作成時御家族にも確認して頂きサービスを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	昔の風習を教えていただいたり、調理の知識を教えていただきながら一緒に調理をしています。また、家事を分担しながら皆と暮らしを共にしている。人生の先輩として、敬意を持って関わるよう心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者にとって御家族が身近に感じられ来園しやすいグループホームを目指している。季節ごとの行事を通じて、本人と御家族の絆を深められるように支援している。また、お互いの状況や気持ちを理解して頂けるように日常生活に関わって頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人が訪ねて来やすい環境づくりや、行きつけの場所へ外食したり、外出する機会をつくる。また習慣や楽しみを継続して提供出来るように支援している。	元職場の同僚や近所の友人が訪ねて来る利用者があり好きな場所でくつろいでいただき、職員はお茶を出している。電話を掛けたい、手紙を出したい等の意向を聞きながら支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を考え、座席の配置や活動の割り振りなどに配慮する。また必要に応じて職員が間に入り利用者同士が良質なかわり合いを持ち、気持ちよく生活出来るように配慮している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設への入所や入院などのサービス利用が終了する時には御家族や移動先に情報や様子をお伝えしている。退去後も必要に応じて御家族と連絡をとり様子をお伺いするなどして必要に応じて支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御本人に直接伺うほか言葉で表現できない方は日常生活の中で表現や仕草、何気ない一言を汲み取ってお一人お一人の思いや希望に沿った生活ができるように検討している。	日常の暮らしの中で利用者の心身の状態に変化を感じた場合には落ち着いた雰囲気づくりに心がけ話を聞くようにしている。思いの表出ができない利用者が普段よく使う単語や身振りはアセスメントシートに記録し、職員は生活歴も考慮し本人本位で生き生きと暮らせるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にはご本人や御家族から生活歴や暮らし方など情報収集している。生活の中でも、御本人との会話の中や面会の方などからもお話を伺い、スタッフ間で共有しできるだけ今までの暮らしが継続できる様に支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子状態、発した言葉などを毎日の日課表や介護記録へ記入する。また、朝礼や申し送りの時間には次の勤務者に引き継ぎ日々の把握が皆で共有できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の思いや希望を伺うとともにスタッフ会議や朝礼の時間、また日々の業務の中で時間をとりスタッフ間での話し合いをしている。御家族、訪問看護なども話をする中で介護計画を作成している。	職員は一人から二人の利用者を担当しており、スタッフ会議等で他の職員からも意見を聞きモニタリングを行っている。介護計画の作成に当り、利用者や家族の意見・意向を伺い、ケア計画に反映している。利用者に状態変化が見られた場合には随時計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や表情、言葉など日課表や個別記録に記入する。また申し送りを通し職員間で情報の共有が出来るようにしている。御家族にも折にふれお伝えし介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人の望まれるニーズに対応し、訪問マッサージに入って頂いたり、行きつけの美容院へ行く等支援している。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	関わりのあった民生委員の方に後見人になって頂いたり、傾聴や趣味活動などに地域のボランティアに入って頂いている。消防署の方に参加して頂いて消防訓練を実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人、御家族の希望を大切に主治医を決定する。受診は本人、御家族と相談しながら早めの医療対応をし、主治医と連携をとりながら健康維持に努めている。	定期検診や受診の際に家族が対応する利用者と都合で職員対応の利用者がいる。また、ホーム利用前からのかかりつけ医の往診を受ける方もおり、日頃の健康管理が適切に行われている。歯科に関しては必要に応じて往診をしていただいている。同じ法人の看護師が週一回来訪し、相談や健康管理に当り、万が一の時のオンコール体制も整っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週1回訪問看護師による健康観察実施。訪問時はお互い書面及び口頭で情報交換、共有し入居者の健康維持に努めている。また日常的に電話等にて相談できる体制にあり、健康を維持し適切に医療につなげる事が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時病院へ情報提供をし入居者が安心して入院治療ができるようにしている。また退院時には病院から情報を頂きスムーズにグループホームでの受け入れが出来るよう体制を整えている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時にご家族と緊急時や終末期について話し合い意向を確認し同意を頂いている。急変時や重度化した時は主治医と連携し御家族に説明し希望に沿いながらまた御家族にも協力して頂きながらチームで支援している	利用開始時に家族等に重度化した場合についての説明が十分されており、看取りなどの現実に遭遇した場合には職員の勉強会を行い、医師や看護師との連携体制も取られている。利用者の状態の変化に合わせて本人や家族の意志も確認しながらその都度見極めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員は心肺蘇生、AED使用の救急救命講習を年1回必ず受講し急変時に備えている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回昼、夜間を想定した避難訓練と年1回の防災訓練を実施している。また折にふれて災害別の避難場所について確認している。	春と秋の年2回避難、防災訓練を実施している。実際の避難時には車椅子と歩行器の方がほぼ半数、シルバーカー等を使用する方が半数ほどとなる。建物からの避難経路はバリアフリーのスロープで繋がり、安全に配慮した造りとなっている。非常時の備蓄として3日分の食料品と介護用品が準備されている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	法人の地区単位にサービス向上委員会、身体拘束委員会が設置されており、人格を尊重した言葉かけ、ケアについて研修し実践につなげている。	基本的には名前に「さん」付けで利用者をお呼びしている。管理者や職員は法人理念にもある「人間の尊厳を大切に、柔軟な心をもって」というフレーズを大切に尊厳について話し合い意識を高めている。利用者の思いを実現するために職員は日頃から話を聞いたりつぶやきの一言を記録し、日常生活の中で一人ひとりの思いの把握に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるよう働きかけ入居者の意思を大切にしている。意思表示が困難な方は表情、仕草などから読み取るように心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や食事時間など一人ひとりの希望や体調、ペースに合った過ごし方が出来るように配慮している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ふた月に一回美容師の方に来て頂き本人の希望に沿って整髪していただいている。可能であれば御家族と一緒に馴染みの美容室に行く。着替えは好みに合った服を選ぶ、外出の際は上着などを選んで頂く。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備は調理や味見、盛り付け、片付けなどできる事を分担して、体調や意思を確認しながら関わって頂いている。食べれない物は代わりに好きなものを提供したり、行事食にお寿司やパーベキューなど好みの献立を取り入れるなど食事を楽しめるよう心掛けている。	全員の利用者が自力で食事を摂ることができるが、一部利用者には声掛けや食器の位置を変えるなどの促しをする場合がある。献立は法人の管理栄養士が立て、食材は法人本部指定の業者により配達されている。食の形態については大きめのキザミ対応の方もいるが、職員の適切な判断でスムーズな食事に繋げている。訪問調査当日も一汁三菜の料理で楽しい会話が弾み、笑い声に溢れていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人の管理栄養士が、献立を立てて調理している。身体状況や体調に応じて食事形態を変える。ゼリーを補うなどして、十分な食事量水分栄養が摂れるよう配慮し記録検討している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ご自身で出来る方は声掛け見守りし、出来ない方は義歯を外し介助を行い清潔保持をしている。		

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来るだけトイレでの排泄に努めている。自力でトイレに行かれる方は、さり気なく尿失禁をしていないか確認し、パットやリハビリの確認をしている。自力でトイレに行かれない方には定期で声掛けをし、排泄の失敗を減らすよう配慮している。	排泄の支援は適切に行われており、職員はチェック表をつけ排泄パターンを把握している。布パンツやリハビリパンツ使用と様々であるが、トイレでの排泄に心掛けている。トイレスペースはカーテンの間仕切りになっており出入りが容易である。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を記入することで、一人ひとりの排便間隔を把握し便秘をしないよう注意している。食物繊維を多く摂取していただき、水分不足にならない様気をつけている。出来るだけ自然排便できるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	清潔が保てるよう配慮し一人ひとりの体調や希望に合わせ、週に二回以上は入浴出来るよう声掛けをしている。安全に気持ちよく入浴していただけるよう必要に応じて介助、見守りをしている。	源泉かけ流しの浴室からは心地よい硫黄の匂いが漂い元料亭を改築した洒落た建物を際立たせている。基本的には週2回以上の入浴を心掛けており、一日おきに入浴を楽しまれる利用者もいる。夕方一緒に入浴するために家族が来訪することもあり職員も共に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その日の体調や希望にそって、疲れが見られる方は、午前午後関係なく休んでいただいている。居室でなく、座敷に布団を敷いて午睡していただくなど、安心して気持ちよく休んでいただけるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量については、薬剤情報提供書ファイルで確認し、理解に努めている。症状の変化により薬が変わる時は特に注意して確認し、職員全員が把握するよう情報共有を徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や力を活かした役割を見出し、仕事や趣味などの楽しみごとを持っていただくことにより、充実感や満足感を得て、張り合いのある生活を送れるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自宅や買い物に行きたいなどの希望は御家族と相談し実行できるように支援している。職員対応にて買い物や外食に出掛ける事もあり、気分転換や満足感を得られるようサポートしている。	外出の年間計画はあるがそれに拘らず月1・2回の買い物や気晴らしの公園散歩などに出掛けている。何よりも手入れの行き届いたホームの庭の散歩は外気浴も兼ねた楽しみの時間となっている。地域の温泉祭りにはお神輿や花火が上がり見応えもあり、地元からの利用者が多いこともあり、慣れ親しんだ行事の一つとして盛り上がっている。	

グループホームかみやまだ敬老園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人がお金を持つことを希望している方は御家族と相談した上でご本人にお金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は職員が見守りの上電話をして御家族とお話ししていただいている。御家族からの手紙は本人にお渡ししてご覧頂き希望があれば返事も支援してお出ししている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	浴室、トイレ等、プライバシーの配慮をしている。リビングは台所の隣にあり、食事の準備の音、匂い等を感じながら家庭的な雰囲気の中で生活して頂いている。また花を飾り季節感をだしたり、室温調節にも気を配っている。	居間兼食堂の大きな掃き出し窓からは玄関のアプローチや手入れの行き届いた庭が見渡せ、閉塞感を感じさせない造りとなっている。居間の空間にはリフォーム前の床の間が残されており、大皿や木彫りの布袋様、風景写真などが飾られ、自宅の延長線上のくつろぎ感を漂わせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関にはソファ、廊下には椅子が配置しており、一人になれたり、気のあった方同士一緒に過ごせるような空間がある。リビングの座席はトラブルがないように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が使いなれた日用品や家具をお使い頂くことで安心して生活できるよう配慮している。	居室は元料亭をリフォームしているため色々な間取りとなっている。ベットはホーム対応で一律であるが、家庭で使われた家具やテレビを持ち込み、利用者それぞれの暮らしぶりが窺える。家族の写真や誕生日の花が飾られ、ホームで落ちついて生活できるように配慮がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレはわかりやすく表示し、危険なもの unnecessaryなものは導線に置かないように心がけている。入居者の状態により御家族と連絡を取りながら安全で自立できる環境づくりをしている。		